



大手町アカデミア×人間文化研究機構コラボレーション 無料特別講座

世界から方言が 消えたなら? —知られざる「弱小言語」の魅力



2019年2月7日(木) 19:00~(18:30開場)

概要

NHK大河ドラマ「西郷どん」は、方言の難解さに注目が集まりました。講師の木部氏の専門は、まさに奄美・沖縄などの方言研究です。本講座の一つめの目的は、方言の調査・記録・継承の活動を通じて講師が知り得た方言の魅力をお伝えすることです。

ところが、この奄美のことばに加え、アイヌ語や琉球列島・八丈のことばが、現在、ユネスコの認定する危機言語としてリストアップされています。危機的な状況にある方言・言語は、日本

国内だけに止まりません。アメリカの言語学者によると、現在、世界に存在する約6000の言語のうち、半数が100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、言語の数は20分の1にまで減少するといわれています。

そこで、本講座の二つめの目的は、多様で豊かな地域の文化や方言を守る意味を受講者の皆さんと共に考えることです。そのための材料として、私たちの研究調査や文化保護活動について紹介いたします。

講師紹介



木部暢子 (国立国語研究所教授・副所長)
きべ のぶこ

福岡県生まれ。九州大学大学院文学研究科修士課程を修了後、鹿児島大学法文学部教授、学部長などを経て現職。著書に『方言の形成』(共著)、『これが九州方言の底力!』(共著)など。



**ナビゲーター
ロバート・キャンベル**
(国文学研究資料館長)

会場：読売新聞ビル3階「新聞教室」
東京都千代田区大手町1-7-1

※お申し込みはこちらから

<http://otemachiacademia.peatix.com/>
(ご利用にはPeatixのアカウント登録が必要です。)

※企画内容は予告なく変更になる場合があります。
※先着順の受付となります。定員に達し次第、受付終了となります。

お問い合わせ t-academia@yomiuri.com
ツイッター <https://twitter.com/oteacademia>
フェイスブック <https://www.facebook.com/otemachiacademia>

会場：読売新聞ビル3階新聞教室

